



# 公開研究会



## 感性的アプローチによる実践報告会

日本国際理解教育学会 実践研究委員会

日時：11月24日(土)13:30~16:45

会場：目白大学 1号館3階 1300教室

会費：無料

参加：日本国際理解教育学会員、その他会員の知り合い等の自由参加

### プログラム：

#### 1. 研究会の趣旨

早稲田大学 山西優二

国際理解教育が目標として掲げる「平和の文化の構築」は、文化や社会の問題状況への知的理解アプローチだけでは実現が難しいことは明らかです。実践研究会では、「感性的アプローチ」に着目し、国際理解教育のアプローチをより多様化・多元化していくことが必要だと考えます。

公開研究会では、それぞれの実践事例から「感性的アプローチ」のあり様を浮かびあがらせ、そのアプローチのもつ国際理解教育にとっての意味・意義を参加者間で探り合いたいと思います。

#### 2. 事例発表

##### ① 「身体で感じる和歌づくり ～文化遺産のフィールドワークを通して～」

奈良県立法隆寺国際高等学校 祐岡武志

いつも身近にあり、何度か足を運んだこともある文化遺産。その空間に再度足を踏み入れ、身体で感じることを意識したとき、新たな学びの世界が広がります。その感性の世界を、和歌づくりを通して表現します。

##### ② 「海外で出会い直す、日本の歌」

東京学芸大学附属世田谷小学校 居城勝彦

誰もが学校の授業で歌ったことのある曲。時間が経ち、それを歌い直したとき、人は何を感じるのでしょうか。歌や言葉、そして音楽が広がる空間から感じられることを見つめ直してみよう。

##### ③ 「触覚メディアとしての iPad の可能性」

文教大学 教育学部 今田晃一

デジタル教科書の動向から、タブレット型端末(iPad)が注目されている。教育における iPad 活用では、常にアナログとデジタルの視点に留意することが必要であり、ここではデジタルにおける「触覚(アナログ)」の可能性を検討する。

### 休憩

##### ④ 「音から連想する雨のエピソード」—演劇知論の8回 目の授業— 目白大学 鈴木真理子

「あめ」という二文字を声に出したり、レインスティックの音に耳を傾けたりして、雨のエピソードを連想しました。この授業を振り返るといろいろなことが見えてきます。音からの連想をほんの少し追体験します。

##### ⑤ 「アート・芸術を通じた地域づくり」

早稲田大学 山西優二

いま日本の地域を眺めてみると、それぞれの地域が育んできた風土・伝統・文化を見据えながら、アート・芸術を地域づくりに活用している事例が数多く見えてきます。いくつかの事例を通して、アート・芸術のもつ意味と学び・教育のあり様を考えます。

#### 3. 研究会のまとめ

目白大学 多田孝志